

Dimorphorchis lowii の開花について

世 羅 徹 哉

Dimorphorchis lowii (Lindl.) Rolfe は、ボルネオ島特産の単茎性の着生ランである。本属には2種が知られ、ともに、長く下垂する花茎に付く花の形態が、基部の2~3個とその他の花で大きく異なるという特異な性状を持つ。属名もこの性状に由来する。

本種は、戦前から数回にわたって我が国に導入されているが、開花の例はほとんど無い。本園には、前園長の唐澤耕司氏がアメリカの Rands Orchids から導入された株が1株あるが1992年の10月~11月に初めて開花したので記録する。

開花した株は、本園で約12年栽培したもので、開花時の株の大きさは、高さ約60cm、幅 (leaf span) 約80cm。葉は13枚あり (他に2枚がすでに落葉)、下から5枚目 (7枚目) の葉腋から

花茎を出した。最大葉は、幅5.2cm、長さ50cmであった。花茎は、9月中旬から見え始め、10月初旬に基部から開花しながら伸長し、19花が咲きそろった同月中旬には長さ約135cmに達した (写真1参照)。基部の2花は、径約6.5cm、花がく片は長楕円形で、黄色地に紫紅色の小点がまばらにあった (写真2参照)。その他の花は、径約6cm、花がく片は線状長楕円形で先は鋭形、周縁は強く波打ち、側がく片は反転していた。内側には、淡黄色地に、紫紅色のつながりあった大きな斑紋があるが、外側は、全面淡黄色であった (写真3参照)。



写真2. 基部の黄色花



写真1. 花茎中間部の開花状態

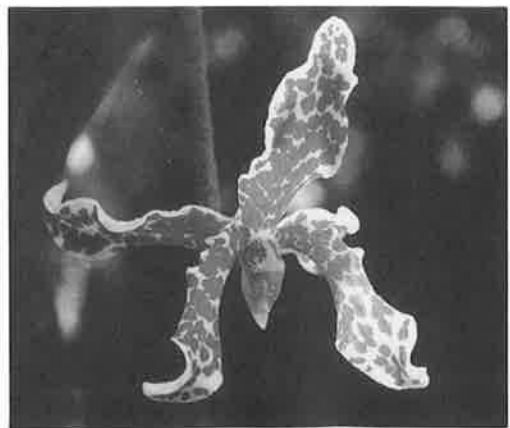


写真3. 基部以外の花